

実績報告書

事業の内容	<p>【事業内容・実施事項・実施方法】</p> <p>①震災支援に関する情報提供、コミュニティ創り 被災地の障がい者支援のあり方について考える「ミナ DE カフェ」を開催。「ミナ DE カフェ」は、大阪で大災害が発生した時のための「顔が見える」障がい者支援ネットワークづくりも目的としています。また、梅田店舗店頭にて都度被災地の情報を提供しました。</p> <ul style="list-style-type: none">・11/24 講演:大阪ボランティア協会岡村こず恵氏、参加者 21 名・12/14 講演:一般社団法人復興応援団佐野哲史氏、参加者 15 名 <p>梅田店舗の店頭にて被災地の情報(現地の写真、各種イベント情報、ボランティア情報、被災の様子を伝える新聞記事、被災者の直筆メッセージ等)を提供しました。</p> <p>②現地の情報を伝える講演会・討論会の開催 12 月 15 日、1 月 16 日に復興支援イベントを開催。被災地にて復興活動を実施している方や関西から復興支援している方々をお呼びして講演、ディスカッションを実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none">・被災地にミナ DE 元気を送ろう(12/15)参加者 59 名・関西からミナ DE 出来る事を考える(1/16)参加者 61 名 <p>③3/10,11 に各種団体と連携し、3.11from KANSAI を企画・実行 大阪ボランティア協会、大阪市社会福祉協議会、遠野まごころネットなどの団体と連携し、被災地支援イベントを実施しました。35 のブースやステージ企画、支援者の振り返り、避難者の集い、関西企業から避難者へのおもてなし企画等を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none">・イベントへの参加者:5,500 名・避難者の参加者:295 名 <p>④被災地へ大阪から応援の声を届ける</p> <ul style="list-style-type: none">・毎月 1 回機関紙(カオウヤ通信)を発行し、東北の福祉事業所に関西からの応援メッセージを送りました。・ミナ DE カオウヤの活動をまとめた DVD を作成・送付しました。・関西と東北がつながる商品企画を複数実施しました(バスボム、オリジナルカレンダーなど)・ミナ DE カオウヤのスタッフが被災地の障害者福祉施設を訪問し、ニーズ情報を収集しました。 <p>④市民巻き込み型のモデルケースとしてノウハウ蓄積</p> <ul style="list-style-type: none">・①～③において、講師から学んだノウハウや検討資料、機関紙を資料として整理し、データベースとしてノウハウを蓄積しました。
-------	---

	<p>【成果】</p> <p>①被災地訪問や関西からの応援の声を届ける事により、被災地の障害者福祉施設との支援関係・協力関係も継続的、かつ強固なものになりました。</p> <p>②ミナ DE カフェには 20 名程度、12 月と 1 月のイベントにはそれぞれ 60 名前後の方々に参加頂きました。被災地の生の声を聞き、討論することで、関西からみた被災地の声、被災地からみた関西の声がお互い伝わり、被災地と関西との連携が加速したと思われます。</p> <p>③3.11 from kansai イベントは、大阪ボランティア協会、大阪市社会福祉協議会、遠野まごころネットなどの団体と連携し、梅田スカイビルで 3 月 10 日、11 日の 2 日にわたって実施しました。被災地への支援活動として、ブース出店、支援組織、ボランティア合わせて約 500 名、おもてなし企業 47 社が参加。企画としても、ブース企画、ステージ企画等、多様な支援企画が実施出来ました。企業(大手、中小)、ボランティア組織、個人ボランティア、支援者、著名人など様々なセクターの方々が参加したこれまでにない形での支援企画が実施されたと思います。</p> <p>④上記イベントには 295 名の避難者の方にイベントに参加頂き、様々な支援企画に参加頂きました。大阪を中心とした関西の市民も 2 日で 5,500 名ご参加頂き、啓発的な意味でも大きな成果がありました。イベントにたくさんの方々に参加頂いたのは、関西にいなながらも何かできないか、と思っている人が多数いる証であり、そういった人たちを巻き込んだ動きが出来てきたのは大きな成果だと考えられます。障害者を支援するためには日ごろから障害者福祉に関わっている人以外の力や理解が必要になるため、障害者も含めた被災地支援のコミュニティが出来たのは重要なポイントであり、その意味で大きな成果がありました。</p> <p>⑤障害者を支援するためには日ごろから障害者福祉に関わっている人以外の力や理解が必要になるため、障害者も含めた被災地支援のコミュニティや日頃からの関係性強化が出来たのは大きなポイントであると考えられます。</p> <p>⑥ノウハウの蓄積 講師から学んだノウハウやイベントのプロセス、成果資料、機関紙を資料として整理できました。</p>
<p>その他特記事項</p>	<p>◆今後に向けて</p> <p>今後も定期的に集まっての勉強会や情報交換を行う事で、信頼関係や支援のあり方に対する検討は進んで行くものと思われます。また、継続的に被災地に行ったり、被災地から大阪に来てもらったり、実際に支援した人の生の声を聞くことで、場面に応じて、本当に必要とされている支援を実施することが出来るようになると思います。</p> <p>関西にいなながらも何かできないか、と思っている人多数を巻き込むような動きが出来たのは NPO、企業、行政が協働したからこそであり、それが有事の際に大きなネットワークになると考えられます。</p>